

# 御津地区アワビ幼稚仔保育場調査

竹内四郎・勢村 均

1. 調査期日：昭和57年11月8日

## 2. 調査方法

御津漁協より伝馬船に便乗し、船上よりの「ノゾキ」とスキューバ潜水により保育場の現況を調査した。

## 3. 結果

当日の天候は曇で、風向SE、風力1、波浪1、ウネリ1といった状況であった。

A. 消波ブロック（N型）沖側にはアマモ50～60%，ノコギリモク、ヤツマタモク30～50%

N型ブロックで6ヶ、蛇籠で3ヶ（石と石の間）アワビを確認、大半は10cm以下だったが放流物クロで殻長12.5cm（2.5cm）200g1ヶを採取した。

B. 岸寄りN型にはモク類70～90%着生、蛇籠はテングサ、アミシグサ等、20分間にN型でアワビ3ヶ（10cm以上）、蛇籠でアワビ3ヶ（10cm以下）が確認された。

N型は水深4～5mに多く、蛇籠は2m内外に多く設置されている。

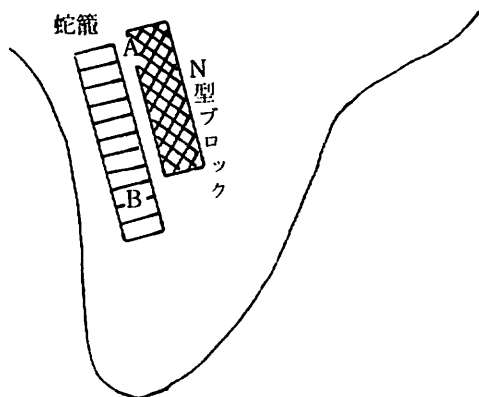


図1 調査地点附近要図

蛇籠は過去において波浪による移動がみられたが、最近は、ほぼ安定している。蛇籠自体にはテ

ングサ類、アミシグサ類、アオサ等の着生は多いが、大型藻の着生は余りみられない。N型ブロックはモク類の着生が多いが、一部を除いてクロメは少なく、沖側の深所にはアマモの群生がみられる。この付近は冬季にはマダコの遊泳がよくみられる他、蛇籠、N型共にバテイラ、クボガイ等は良く着生している他、ムラサキウニ、イトマキヒトデ等もみられる。表1によると、海藻の着生は $m^2$ 当り790g～2,080gと他地区に比して余り多い方ではないが、冬季には多く着生している。

アワビは、20分間に3～6ヶ程度発見される位で余り多くはないが、この地区がすでに解禁されており、漁業者によって採捕されているのはっきりしたことは判らない。漁業者によれば、30%位は放流ものが揚っているということである。

表1 坪刈り表

		Aの①	Aの②	Bの①	Bの②
藻類	オオバノコギリモク	880 g		2,080 g	240 g
	フシスジモク	20 g			440 g
	ヤツマタモク		600 g		
	ノコギリモク		80 g		120 g
	イソモク		640 g		
	アカモク		20 g		
	マクサ	120 g			
貝類	アワビ	1 ケ		2 ケ	
	チグサガイ				8 ケ
	バテイラ	1 ケ	1 ケ	3 ケ	3 ケ

採捕されたものは殻長、成長度等から考えると、放流後3～4年位経過しているものと推定される。

表2 アワビ測定表(クロ)

No.	殻長	放流時殻長	成長度	重量	天然、放流別
1	12.5 cm	2.5 cm	10.0 cm	200 g	放流
2	10.6	1.8	8.8	147	”
3	11.8			167	天然